

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative conferencing

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol 5. No. 16 2003 年 9 月 30 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■VCON 社、製品関連ニューリリース: VCB2000、vPoint、コンファレンスモデレーター



VCB2000



vPoint

イスラエルのテレビ会議メーカーVCON 社は、同社の新バージョン MCU である VCB2000 を発表した。VCB2000 は、単に多地点間接続を行う MCU 機能をもったものではなく、ストリーミング・サーバー機能、内蔵ゲートキーパー機能、マネージメント機能がひとつの統合された製品。また、トランスコーディング機能もあり、データ転送速度は、1.5Mbps までサポートしている。ポート数は、8 ポートから 64 ポートまでスケラブルに対応する。マルチキャスト配信に対応し、SIP、H.323 の混在環境での会議セッションもハンドリングできる。

この VCB2000 には、「VCON コンファレンスモデレーター」と呼ばれる、ウェブベースのスケジュール、モデレーター機能を備えた会議管理ソフトで、VCB2000 MCU に同

梱。この会議管理ソフトで、ポイント TO ポイント、マルチポイント、定期的に繰り返し開催される会議、ゲートウエーコードのハンドリングなどに対応している。

また、vPoint と呼ばれるテレビ会議クライアントソフトも付いてくる。通常 MCU のポート数以上に同梱される。vPoint は、2002 年第三四半期にリリースされた製品で、現在同社のパーソナルテレビ会議アプライアンスである ViGO に搭載されている。vPoint には、スタンダード版とプロフェッショナル版があり、プロフェッショナル版には、USB カメラやヘッドセットが付く。

■米ファーストバーチャル(FVC)社、米ナスダック市場から上場廃止の可能性、マーケティング担当副社長交代

ウェブ会議ソリューションを提供する米ファーストバーチャル社は、米ナスダック市場に上場しているが、上場維持基準のひとつである、マーケットプレイス規則 4310(c)(2)(B)、自己資本が 250 万 USD 以上であること、市場での時価総額が 3500 万 USD 以上であること、過去 3 会計年度において純所得が 50 万 USD 以上の会計年度が 1 期あるいは 2 期最低あることなどを定めた規則をみたしていないとして、上場(Nasdaq SmallCap market)廃止の可能性がでてきた。同社では、Nasdaq 上場審査委員会のヒアリング実施を申請した。Nasdaq SmallCap マーケットより通知が同社宛にあった。

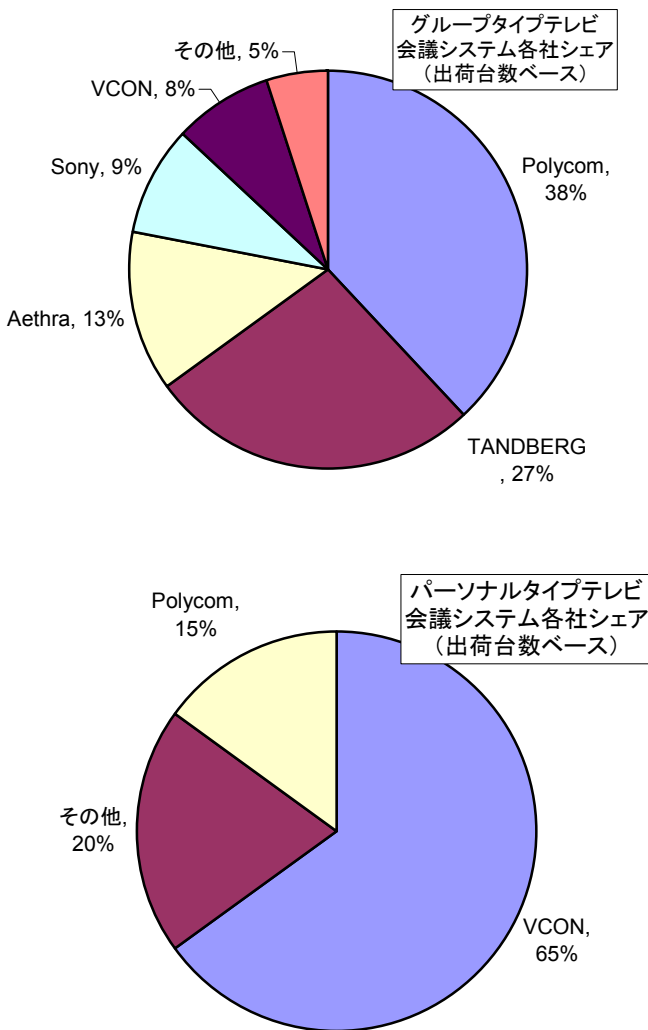
エゼニア! 社([CNA リポート Vol.5 No.14 号参照](#))が、同規則 1ドル基準等で廃止されたが、その点においては、FVC 社は、9 月 30 日現在 1.79USD あたりで推移しているため該当しない。

これを受けてか、Bob Romano 氏に変えて、同社ではマーケティング担当副社長として新たに David Weinstein 氏を迎え入れた。同社の全世界マーケティング戦略や実行計画の策定実施などを担当し、同社の収益の改善と市場シェアアップを図る。Bob Romano 氏は同社を退社する。

同社は、最近中国の北京地方税務局に、“ClickToMeet Express”を導入した。19カ所の出張所などと結んで活用するという。

■中央ヨーロッパテレビ会議市場状況
(ドイツ、オーストリア、スイス)

情報提供: Ant Bilsev /VTRON GmbH



ドイツで、コンファレンス関連のコンサルティングとニュースレターの発行を手がける VTRON 社がとりまとめた、ドイツ、オーストリア、スイス、3国における2003年第二四半期(4月-6月)のテレビ会議システム出荷台数報告によるとグラフの通り(Videoconferencing in Europe 8月31日号)。

全端末台数の公表はできないようだが、グループタイプ(セットトップ、ルームタイプなど)テレビ会議では、ポリコム、タンバーク、アエスラ、ソニー、VCON の順となった。また、パーソナルタイプ(PCタイプ)では、VCON が過半数以上のシェアを持ち、その後をポリコムが追う。その他の中では、スコッティ(旧ザイダクロン)などが含まれる。また、ポリコムの ViaVideo は、IP のみをサポートしているため、逆に ISDN への需要が高い同3国でシェアを取るの難しいのではとの見方を VTRON はしている。

VTRON によると、ポリコムの数値については、ポリコム自体から数値を直接得ることはできなかったため、そのいくつかのリセラーから数値を集め、VTRON の予想値を加味した上で算出した。また、ソニーの数値については、ソニー・アムステルダムに確認した模様。

Ant Bilsev /VTRON GmbH ant.bilsev@vtron.de

■米ワイヤーワン社、ゴア・テクノロジー・グループへテレビ会議ソリューション事業部の売却完了、社名変更

2003年6月10日にゴア・テクノロジー・グループへの売却合意、ワイヤーワン社での株主総会での承認に基づき、ワイヤーワン社のテレビ会議ソリューション事業部の売却手続きが完了した。今回の売却益は、2400万USD(約26億6千万円)。そのうちの2100万USD(約23億2700円)は現金として入ってくることになる。売却益は、銀行貸し付け(2003年6月末現在残高4,519,741USD)に対する返済、販売促進、マーケティング、カスタマーサポートなどに投資する。

今回の売却により、ワイヤーワン社の名前も合わせてゴア・テクノロジーへ移され、テレビ会議サービスビジネスに完全にフォーカスする。これにあわせ、社名も変更し、グローポイント社(Glowpoint)になる。グローポイントという名前は、ワイヤーワン社時代に提供したテレビ会議サービス名から来ている。

ナスダックでの同社の使用記号は、9月25日から「GLOW」へと変更された。

■ラドビジョン社、スターバック社マーケティング戦略で提携

IP 向け多地点接続装置、ゲートウエーなどを提供するイスラエルのラドビジョン社と、IP テレビ会議をストリーミングするソリューションを提供する米スターバック社が、両社製品等の販売促進のため提携した。

■コンフテル社、ポータブル電話会議端末 Konftel 50 リリース



Konftel 50

スウェーデンのコンフテル・テクノロジー社が、ポータブル電話会議端末 Konftel50 をリリースした。同社では、電話会議用端末として、Konftel 100、Konftel 200、Konftel 200/NI の 3 機種を開発製造している。

この Konftel 50 は、それ自身に電話回線接続機能はないかわりに、携帯電話やビジネスホンなど DECT 対応(欧州の電話機規格の名称)の電話機に接続して電話会議ができる。また、PC の音声インプットに接続すれば IP 電話としても使える。価格は、399EURO(約 5 万 2 千円)。

音声は、同社が開発した OmniSound™でハイクオリティな音声会話を実現するという。全電話会議端末がこの OmniSound™に対応している。また、Konftel 200/NI は、アナログ回線だけでなく、ISDN 回線にも対応している。Konftel 200/NI は、2001 年 7 月にリリースされ、価格は SEK7,500(約 10 万 8 千円)。200 シリーズは大人数会議参加向けに開発されている。

コンフテル社は、エリクソン社などにもエリクソン社ブラン

ド向けに電話会議端末を開発し供給している。アメリカなどにも支店があるが、現在は主にヨーロッパ市場に販売している。



Konftel 200/NI

■映像新聞社、企業向け映像コミュニケーション関連情報紙「VizIT」を年明け創刊

映像新聞社(東京都文京区)は、企業向け映像コミュニケーション情報に特化した専門紙「VizIT(ビジット)」(編集長:小林直樹氏)を、2004 年 1 月に創刊する。IT 投資に積極的な中小企業経営者や企業の情報部門担当者がターゲット読者。10 月には創刊ゼロ号を発行。10 月 7 日(火)から 10 日(金)に開催される CEATEC Japan で特別プロモーションを行う。

タブロイド版新聞 16 ページ。発行は月刊を予定。価格(予価)1 部 1000 円。国内外の導入事例紹介やインタビューを通じて、ビデオ会議やインターネット放送など IT を基盤とする映像コミュニケーションの B2B への本格導入を、ケーススタディ、技術動向、業界市場動向分析を通して検証し、読者にとって「使える」専門紙を目指す。

■NTT-ME、SIP サーバーツールキット Ver.1.5 販売開始

NTT-ME(東京都千代田区)は、イスラエル、ラドビジョン社が開発した「SIP サーバーツールキット Ver 1.5」を日本向けに販売を開始した。

このツールキットを活用することにより、通信機器メーカーが、ネットワーク間でもシームレスに通信ができ、且つエンドユーザーに高度な通信機能を提供する音声と映像に対

応した通信機器を短期間に開発することができるという。

ツールキット自体は、平成 14 年 7 月より販売していたが、今回コール制御と異なるプロトコル間の通信を可能とする B2BUA 機能、そして接続前に相手の状態を知ることができるプレゼンス機能が新たに追加された。

■JSS、電子会議とグループウェアをドッキングした PC サーバー発売

ジェイ・エス・エス(JSS:東京都豊島区)は、サイボーズグループウェア最新版である「Office6」と、同社が開発したマルチメディア会議システム「BizMate Pro」をプリインストールした PC サーバー「Collaboration Server」を 10 月 1 日から販売を開始した。

PC サーバーは、グループウェアとサーバーを含めて 150 万円(4 拠点同時接続の場合)。従来の同機能のものよりも 1/3 程度の価格を実現し、営業拠点が 3、4カ所の中堅企業でも手軽に導入できる価格設定にした。クライアント側は、PCにUSBカメラとヘッドセットを付けるだけでどこからでも会議ができる。

同社では、初年度に 50 システム、次年度には、100 システムの販売を見込んでいるが、実現のために積極的に販売代理店網を構築するという。

日本エリクソン様は、本社、事業所、各拠点にテレビ会議システムが設置されており、本社においては、本社ビル内の各フロアの、プレゼンテーションなどを効率的に行えるタッチパネル式のAV機器システムが組み込まれた会議室や、その他のミーティングルームなどにテレビ会議システムがそれぞれ設置されており、社員の方がいつでも気軽に利用できる環境があります。

(中略)

同社本社ビルの多目的会議室 Theater Room では、複数台あるカメラ、プロジェクターやスクリーン、テレビ会議システムを統合化し、ポータブルのタッチパネルで一元的に管理できるAVシステムを導入しています。また、その他のミーティングルームにも、テレビ会議システム、モニター、AV機器などの簡易なシステムが設置されています。使いやすいシステムを構築するために、仕様作りに半年をかけて設計致しました。

(中略)

テレビ会議システムの効果としては、「導入前後と比べかなり出張が減りました。」(同課 澤 礼子様)SARSの時は、中国にも事業所やクライアントがいるため、緊急連絡手段として役割を果たすことができました。

(中略)

また、テレビ会議システム自体については、「テレビ会議システム自体のインターフェイスだとか、使い方であるとかは、非常に洗練されてきていると思います。思っているよりは敷居が低い。有効活用したほうが良いと考えます。」

(後略)

フルストーリーへ、

<http://www.vtv.co.jp/WebData2/jirei/ericsson.htm>

日本エリクソン株式会社 <http://www.ericsson.co.jp>

-取材・編集・掲載協力-

VTV ジャパン株式会社

WWW: <http://www.vtv.co.jp>

e-mail: info@vtv.co.jp

TEL.0120-880-570

-取材・執筆 CNA Report Japan 編集長 橋本

<広告>トータル・ビデオ会議システム



トーマンサイバービジネス株式会社

<http://www.tomen-g.co.jp>

導入事例

日本エリクソン株式会社

AV 機器システムとテレビ会議システムの連携

「プレゼンテーションやテレビ会議に集中できるようになり、両社の連動した使い方も簡単」

(前略)

展示会レポート

Computex Taipei 2003

Taipei International Computer Show

2003年9月22日-26日 台湾台北世界貿易センター

<http://www.taipeitradeshows.com.tw/computex/>



展示会場(Hall 1)

Computex、出展企業数は、1241 社前年度より増

今回の Computex には、22 日と 23 日の 2 日間行ったが、その後、24 日に成田経由で北京へ飛んだ。北京では 25 日から 27 日まで DVComm 2003 と呼ばれるテレビ会議専門の展示会が開催されたので参加した。

今号では、Computex について報告するが、DVComm については、次号 10 月 15 日号でレポートする予定。

Computex は、コンピューター関連の展示会で、今年は前回よりも出展社数が、当初開催の 6 月開催から 9 月に延期されたにもかかわらず、1200 社以上の出展企業。会場はホール 1 からホール 3 まで所狭しとブースがならんだ。22 日、23 日と会場は非常な数の人で混雑し、歩くのも大変という感じだった。歩いていると時々日本語が聞こえてきた。日本からも来ている人が結構いるようだ。欧米からも多かった感じがする。

この展示会は、日本の日経 BP 社もスポンサーになっているようで、会場は日本人専用の受付から、会場で配布されているデイリー新聞(無料)には、日本語版もあった。

台湾通信工業股分有限公司、IP テレビ電話

台湾通信工業股分有限公司(TTIC)のブースでは、TIA-8000、TIA-8800、TIA-2200 などの IP テレビ電話が展示されていた。同社は、台湾 TATUNG 社と NEC の合併会社で、1958 年に設立。テレビ電話以外にも GSM 公衆電話機、FAX、VoIP ゲートウエイ、VoIP ホン、などさまざまな通信機器を開発している。

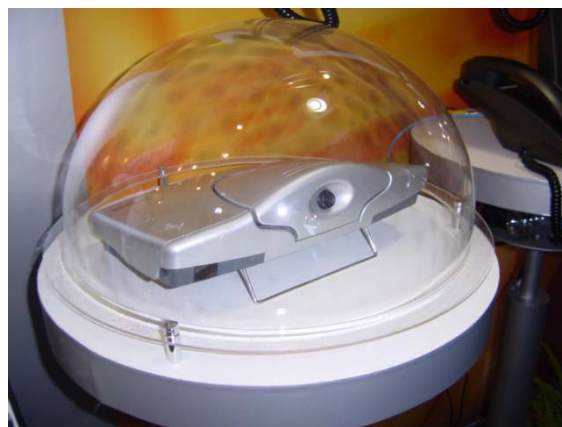


TIA-8000

TIA-8000 は、6.8 インチの TFT モニタを搭載し、128kbps から 768kbps の帯域をサポート、H.323v2 対応(H.263+)。音声は、G.723.1 対応、エコーキャンセラ内蔵。映像、音声入出力コンポジット。

TIA-8800 は、4 インチか 2.5 インチ TFT モニタ内蔵、64kbps から 768kbps までの帯域をサポート。映像は、H.323v2(H.263+)、音声は、G.723.1、G.711、G.729 に対応。映像、音声入出力コンポジット。IP テレビ電話だけでなく、通常の電話として、また、IP 電話としても使える。

TIA-2200(写真下)は、セットトップタイプテレビ電話で、テレビモニターの上などに設置して利用するタイプ。



TIA-2200

スペック的には、H.323v2 (H.263+)、128kbps から 768kbps の帯域に対応。音声は、G.723.1 対応、エコーキャンセラ内蔵。映像、音声入出力コンポジット。マイク、スピーカ端子、Sビデオ入力端子、VGA 出力端子などを備える。画像フォーマットは、TIA-8000 と TIA-8800 と同じく、CIF、QCIF、SQCIF に対応している。

TIA-8000 を使って、同社の中国上海のオフィスとの接続デモを行ってもらったが、300kbps くらいの接続で、映像も音声も結構良かったと思う(この評価は主観的なもので人によっては評価が変わるかもしれない)。テレビ電話中に、接続中の帯域使用状況などの数値は画面向かって右側に表示することもできる。ただ、筐体が大きいので持ち運びがちょっと大変かもしれない。

TIA-2200 のデモも行ってもらったつもりだったが、デモ端末がフル稼働だったこともあり、また時間的な都合でできなかったが、TIA-8000、TIA-8800、TIA-2200 の中で TIA-8000 を大々的にプロモーションしていた。



TIA-8000 を並べて展示する台湾通信工業

慧達通訊科技股分有限公司、MPEG4 対応 PC テレビ電話

慧達通訊科技股分有限公司 (APLUX) は、H.323 対応の PC テレビ電話 (i-See ビデオフォン MU2-48VP) を展示していた。映像コーデックは、デモでは MPEG4 であったが、H.261 も対応。今後は H.263 も開発プラン上にある。帯域は、512kbps までサポート。

日本語が話せるセールスマネージャーの郭峻寧氏によると、ソフトウェアは、40USD (約 4,500 円) で、ヘッドセットとウェブカメラが付いてくる。写真上は、MPEG4 による IP

テレビ電話デモで、同社の上海オフィスと接続。



上海との MPEG4 によるテレビ電話 (MU2-48VP)

写真は大型フラットモニターにノートパソコン画面の映像を映し出しているところ。そのノートパソコンにソフトウェアがインストールされている。300kbps くらいの接続だったが、音声も映像も非常にクリアー。ホームユーザーをターゲットとしているようだが、ビジネスでも十分使える感じ。この写真は、「写真をとりますから」ということでポーズをとってもらった状況だったが、このデモは結構な数の人が見ていた。モニタ画面には、「DVD クラスの映像と音声のクオリティ」と書かれていた。

付属のカメラには、テレビ電話だけでなく、映像録画、スナップショット撮影、ビデオメール、AVI ファイルを MPEG ファイルに変換する機能、デジタルアルバム、フォトエディタ機能なども入っている。

奥億科技股份有限公司、ウェブ・ビデオフォン

2002 年 2 月に設立されたばかりの台湾メーカー、奥億科技股份有限公司 (AMTEK) は、10.4 インチモニタとウェブカメラを搭載した「ウェブ・ビデオフォン」プロトタイプ of the 参考出展をした。(次ページ写真は特別許可)

ウェブ・ビデオフォンは、画面部であるウェブパッドとそのウェブパッドを載せるクレードル部分、そして 900MHz 帯コードレスホンがセット。

IP テレビ電話、インターネットサフィン、メール、掲示板、アクセサリ、などの機能をタッチパネル画面となっているためスタイラス (向かって右側横から取り出す) で操作する。画面の縁には、マイクとスピーカが内蔵されているが、電

話の時はコードレスホンを使うことも出来る。



Web Videophone

ウェブパッドとクレードル間は、IEEE 802.11b で接続。使われている CPU は、Transmeta 1.0GHz、OS は CE.NET 4.2、64MB の CF カード、メモリーはオンボード 128MB DDR RAM (MAX.256MB)。テレビ電話は、H.323v4 (H.261 サポート。H.263 は今後サポート) に対応し、SIP は現在開発中。音声コーデックは、G.711 に対応しているが、今後 G.723 と G.729 にも順次対応させるとのこと。カメラは、CMOS センサー搭載。

また、インストールされているアプリケーションとしては、マイクロソフトエクセル、パワーポイント、ワード、PDF、イメージなどのビューワー、メディアプレーヤー、ウィンドーズメッセンジャー、文字認識、VoIP 電話などもインストールされている。

展示されているプロトタイプは、日本語インターフェイスで説明して頂いた同社社員の方は、「日本での販売を視野に入れている。」と言っていた。理由としては、日本では ADSL などのブロードバンド環境が進んでいるから。現在日本でのパートナーを探しているとのこと。

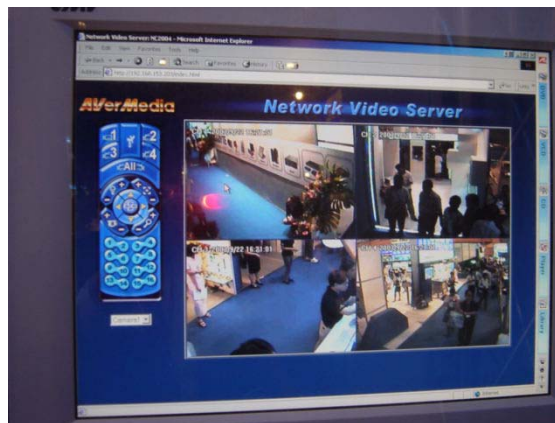
無線 LAN でウェブパッドとクレードルを結んでいるので家の中で、どこでもワイヤレステレビ電話が可能。

ちなみに、「これでテレビが見ることができますか？」と聞いたところ、テレビは今のところ考えてはいないけども、結構おもしろいかもしれないと言っていた。

遠隔監視系では MPEG4 を散見

圓剛科技股份有限公司 (AVerMedia) など数社では、

MPEG4 や MJPEG をサポートした遠隔監視サーバーの展示を行っていた。圓剛科技股份有限公司の MP3000、MP5000 では、1 から 16 カメラ表示、MPEG4、MJPEG に両対応。また、Smart Guard は、MPEG4 のみ、NC2004 は、MJPEG のみに対応している。SG と NC2004 は 4 カメラ表示に対応。



会場内のモニタリングによるデモ

まとめ

ビジュアルコミュニケーション系は、H.323 や MPEG4 テレビ電話、遠隔監視系などが展示されていたが、音声会議端末系は、前回の CAN Report Japan Vol.5 No.15 で Taipei Telecom のレポートをしている TECOM DU8806S がひとつ出展していたのを確認した。

MPEG4 と H.261 をサポートした IP テレビ電話は慧達 通 訊 科 技 以 外 だ と 聞 いた こと が ない が、ハイエンドのテレビ会議だとソニーの PCS-1 は MPEG4 をサポートしているがその他欧米メーカーではサポートされた端末はない。中国では、MPEG4 をサポートした MCU (多地点接続装置) を開発している中国メーカーがあったが、近い将来テレビ会議システム、テレビ電話と MPEG4 を標準で搭載する時代が来るかもしれない。

台湾通信工業のテレビ電話は、デモしてくれた人の話からすると、あまり日本進出を意識してはいないようだったが (NEC と の 関 係 か ら か ?)、他社の製品については、可能性があれば是非日本での販売機会を持ちたいという声をよく聞いた。しかし、海外メーカーにとって日本市場は門戸が厳しいという印象が多い。

次回、10月15日号は、北京で9月25日から27日まで

開催されたテレビ会議をメインとした DVComm China 2003 をレポートする。40 社程度の出展で、ソニー、タンバーク、ポリコム、CRESTRON、VTEL などが出ていたが、それ以外は、中国企業で、PC ベースのテレビ電話、ウェブ会議から、MCU、ゲートウェイやゲートキーパーなどを開発しているところが何社もあった。監視系もいくつか展示していた。40 社というと、アメリカの Telecon がなくなったので、この DVComm が今のところ世界最大のテレビ会議展示会になるのではないかと思う。

(Computex リポート終わり)



<広告>イスラエル VCON のテレビ会議製品情報(日本語): 日本地方自治体等導入実績あり、PC タイプのテレビ会議システムからセットトップタイプのものから MXM メディアエクステンジサーバー、MCU、ストリーミング、開発ツールキットなど幅広いニーズ

に対応。テレビ会議メーカー、大手 5 社に入る。

詳細上イメージをクリック! PC 用会議システム vPoint

イベント情報

国内

■ Visual Nexus Video & Voice Over IP セミナー

日時: 2003 年 10 月 15 日(水) 13:30-16:00
(13:00 より受付開始)

場所 & 主催: トーメンサイバービジネス株式会社

パートナー: 日商エレクトロニクス株式会社

問合せ: トーメンサイバービジネス株式会社

TEL: 03-5715-0820 FAX: 03-5715-0830

URL: <http://www.tomen-g.co.jp/>

* H.323 IP ビデオ会議とストリーミングの製品・事例紹介

海外

■ ITU TELECOM World 2003

日時: 2003 年 10 月 12 日(日) - 18 日(土)

会場: スイス ジュネーブ Geneva Palexpo

主催: ITU 国際電気通信連合

* 関連のベンダーなども出展する模様。

詳細: <http://www.itu.int/WORLD2003/homepage.html>

■ Conferencing4Business

日時: 2003 年 9 月-10 月

会場: 10 月 15 日ニューヨーク、10 月 22 日シカゴ

主催: Wainhouse Research LLC

* テレビ会議、音声会議、ウェブ会議関連のセミナー

詳細: <http://www.conferencing4business.com/>

■ WAVE

The Web, Audio, Video Collaboration Event

日時: 2003 年 11 月 12 日(水) - 13 日(木)

会場: イギリス ロンドン Olympia Conference Centre

主催: Rock Media

* 初のエンドユーザー向け展示会(今年初めて開催)

詳細: <http://www.wave-conferencing.com/>

編集後記

編集後記は、一度やめまると言いつつも最近再開した感じになってしまいました。

今週号から不定期ですがドイツ Videoconferencing In Europe の編集長である VTRON 社の Ant Bilsev 氏からの情報提供を元に CNA Report Japan でドイツ、オーストリア、スイスのテレビ会議、電話会議ニュースをレポートします。

第一回目は、すでにご覧の通り、テレビ会議出荷台数についてです。本当のところは日本市場のグラフがあるべきところかと思いますが、中央ヨーロッパ 3 国の市場レポートが先になってしまいました。ただし、各社の台数は公開できなかったようで、シェアのみとなっています。

日本市場についてのデータですが、メーカーの意向によるため、可能性は現在のところ不透明です。あるメーカーは是非やってくれとのお言葉を頂いておりますが、他のメーカーについては正式にはまだ確認がとれていません。可能であれば、この CNA Report Japan でも読者の皆様に市場データを報告できればとは思っておりますが、今のところはなんとも言えません。

いずれにしても、今後、Ant Bilsev 氏の情報提供によりドイツ、オーストリア、スイスを中心としたヨーロッパのニュースをお届けできればと思っております。

CNA Report Japan(シーエヌイー・レポート・ジャパン)

編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report Vol 5. No.16 2003 年 9 月 30 日号終わり)次回は、2003 年 10 月 15 日を予定しております。ご購入ありがとうございました。